

令和 3 年 8 月 30 日

令和 2 年度 特別の教育課程の実施状況等について

岡山県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
学校法人就実学園 就実小学校	岡山県教育委員会	私立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
学校法人就実学園 就実小学校	https://www.shujitsu-e.ed.jp/information/6451/	https://www.shujitsu-e.ed.jp/information/6454/

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代に於いて必須となるグローバルな視野を持った人材を育成するため、小学校1年生～6年生において、土曜日を開校日とし、「英語科」を新設する。（1年生は、週1時間の外国語活動と週2時間の英語科を合わせて週3時間）。2年生では、週3時間の英語科を新設することとする。

なお、3年生からは総合的な学習の時間（年間70時間）の学習時間の中で、異文化・国際理解分野における学習を統合・発展的に行うと共に、週2時間の英語科を新設することで実践的英語力を培うことができるようにする。これを実現するために、英語を母国語とする常勤の外国人教師6名を配置する。この「英語科」の新設主眼は、グローバル化する社会を見据え、先進的な教育方法を探求しながら、国際理解と実践的英語力の養成にある。

加えて、算数（1～4年生）・図工（1～6年生）・体育（1～6年生）の3教科を英語（イメージ教育）で行う。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本校が所在する岡山市には外国人居住者が年々増加してきており、特に岡山市内に所在する5つの大学への留学生が急増している。その留学生との交流・交歓を通して、国際理解を深めるよう努力してきた。加えて、日本の労働力人口の減少に起因して外国人労働者が本市へも流入してくることも予想され、グローバルな視野を持つ人材を養成して、彼ら外国人と共生していくことが必須の課題となることに鑑み、特別な教育課程を編成・実施していく必要がある。

(3) 特例の適用開始日

平成31年4月1日

(4) 取組の期間

令和5年3月31日まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
 - ・ 一部、計画通り実施できていない
 - ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

- ・ 校内研究において、本年度は《児童一人ひとりが「楽しい、分かる、できる」と感じられる『就実型イマージョン授業』の開発》という研究テーマを設定し、授業研究（English, Math, Art, P.E.）、学級経営、校内環境推進、iPad（タブレット）活用等の研究に取り組んだ。
- ・ 特に、授業研究では、研究の視点を「子供の実態から考える授業づくり」「主体的・対話的で深い学びの実現」「学びを実感できる振り返りの充実」の3点とし全教職員が参加して校内授業研究、研究協議を行った。
- ・ 英語で積極的に交流できる場の設定（学校行事・姉妹校関係行事・校内スピーチコンテスト等の計画や検証）やホームルームにおけるイマージョン環境の工夫に重点をおき、取り組んだ。
- ・ 就実型イマージョン教育を巣紳していくための基本方針である「就実小学校 Language Policy」の策定に向けて準備を行った。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
 - ・ 実施していない

<特記事項>

- ・ 参観日では、イマージョンの授業を公開している。
- ・ オープンスクールの際には、イマージョンの授業を公開するだけでなく、イマージョンの取組を説明し、児童の英語のスピーチ等を見てもらっている。
- ・ 学習発表会では、英語劇や英語の歌を発表したり、研究したことを英語でプレゼンテーションしたりしている。
- ・ 保護者対象の英語ワークショップを開催して、家庭での英語の学習の取組等について説明している。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校の学校教育目標である「グローバル社会の担い手として、未来をつくる就実の子を育む」

の実現に向けて、就実型イマージョン教育の推進に全教職員一丸となって取り組んできた。

その結果、全体としては、児童の意欲面の育成において目標値を大きく上回る成果となった。

また、卒業時の目標レベルである CEFR A2～B1 を、卒業生の90%以上（TOEFL 結果より）が達成できており、実際に英検2級又はケンブリッジ英検準2級以上取得している者が70%おり、6か年のイマージョン教育の成果が客観的なデータからも把握できる。

しかしながら、英語を苦手としている児童も一定程度いる。また、英語能力においては、日常的な学習の様子やケンブリッジ英検の結果から考察すると、4技能の育成において、ばらつきがあることが課題である。

（2）就実ビジョン120に示す学校教育の目標との関係

就実学園では、学園創立120周年への道しるべとして、「就実ビジョン120」を作成している。ビジョンの4つのテーマの1つである「国際交流」において、国際化・多文化共生社会の推進が掲げられている。それを受け、本校では、多様な文化や考え方があふれる国際社会において、自分の力で考え、生き抜く力をつけるために、英語力と並行して、日本語力の向上を図っている。また、英語に日常的にふれることができる教育課程や教育環境をつくることで国際人としての素地を育てている。令和2年度は、コロナウイルス感染症対策のため、オーストラリア研修や国際交流会が実施できなかった。代替として、Webでの姉妹校との交流や国内での English Camp を実施し、学校で学んだ英語を実践で生かすことができる場を設定した。

5. 課題の改善のための取組の方向性

今後は、『一人もとりこぼすことがないよう、個別でのきめ細やかなサポートに関する研究』と『Reading と Writing に関して、技能面の向上を図るための研究』が必要と考えられる。

課題の改善のために、次年度以降も、校内研究で就実型イマージョン教育の推進を図るとともに、「各学年のイマージョン教科年間指導計画」と「English 各学年使用教材、到達目標の目安」の見直し、さらに、「就実小学校 Language Policy」を策定に向けて準備し、全教職員の共通理解のもとに取り組むことにした。